



アンケート調査 結果報告書

「袋井市議会アンケート」の調査結果を市民の皆様にお知らせします。

袋井市議会では、平成27年に制定した議会基本条例に基づき、議会改革の取り組みをより一層推進するとともに、若者の政治離れや女性の政治参加などの課題解決に取り組むことを目的に「議会活性化特別委員会」を設置しています。

この程、特別委員会としての取り組みの一環として、袋井市議会の取り巻く現状を把握することで、課題解決へ向けた取り組みの参考とするため、アンケート調査を実施しましたので、その結果を市民の皆様にお知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査項目

- | | |
|----------------|---------|
| ア ご自身のことについて | 問1～問3 |
| イ 市議会議員の選挙について | 問4～問5 |
| ウ 市議会議員の活動について | 問6～問13 |
| エ 市議会議員の定数について | 問14～問15 |

(2) 調査設計

- ア 調査地域：袋井市全域
- イ 調査対象：市内にお住まいの方
- ウ 調査期間：令和2年8月1日～令和2年8月31日

(3) 調査方法

- ア しずおか電子申請システム活用したウェブアンケート
 - (ア) 「広報ふくろい(8/1号)」や「ふくろい市議会だより(8/1号)」に、『QRコード(読み取りバーコード)』を掲載
 - (イ) 「メローねっと」や「コミセンLINE」に、『URL(ウェブアンケートへのアクセス先)』を送付
- イ 紙媒体を活用した記入式アンケート
市内14の各コミュニティセンターにおいて、地域で開催される会議や各種教室などで来館した方に対し、アンケート実施を案内
- ウ 市内高等学校における市内在住の生徒に、学校を通じてアンケート調査への回答を依頼(袋高：ウェブアンケート、袋商：紙媒体アンケート)

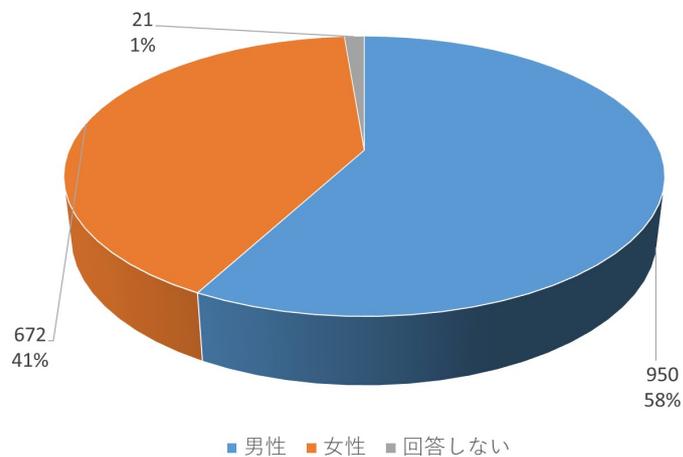
(4) 回収結果

- | | | | |
|-----------------|---|--------|----------|
| ア ウェブアンケートによる回答 | … | 1,003人 | |
| イ 紙媒体による回答 | … | 640人 | 計 1,643人 |

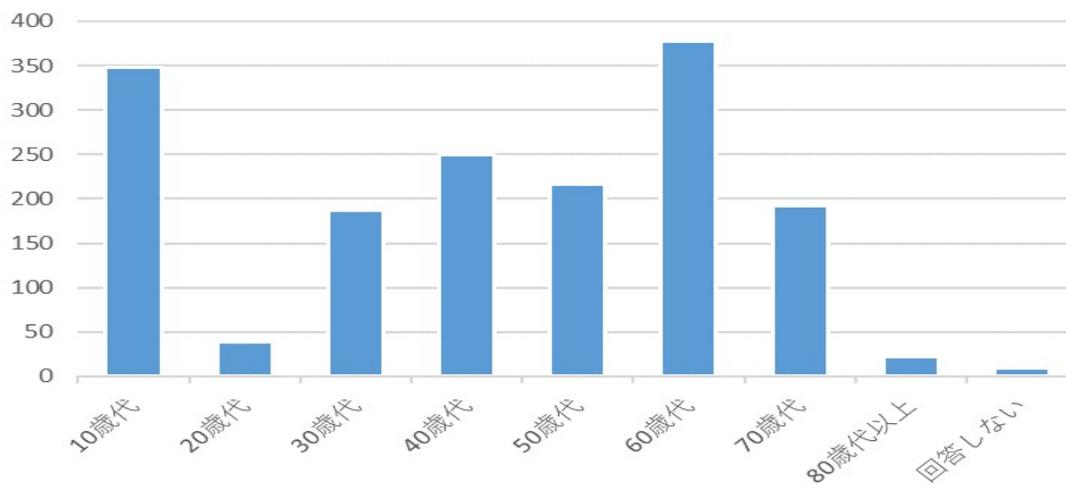
2 調査結果

ご自身のことについて伺います。

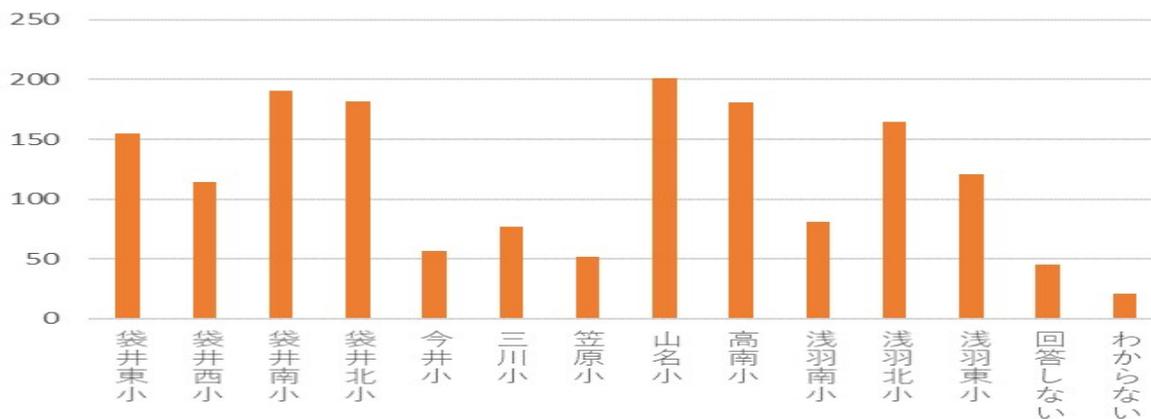
問1 あなたは、男性、女性のどちらですか。



問2 あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。



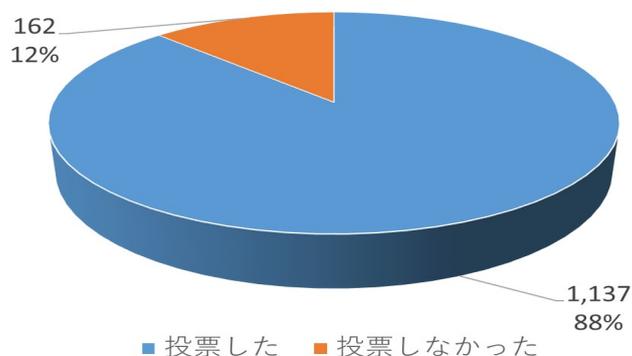
問3 あなたのお住まいは、どこの小学校区ですか。



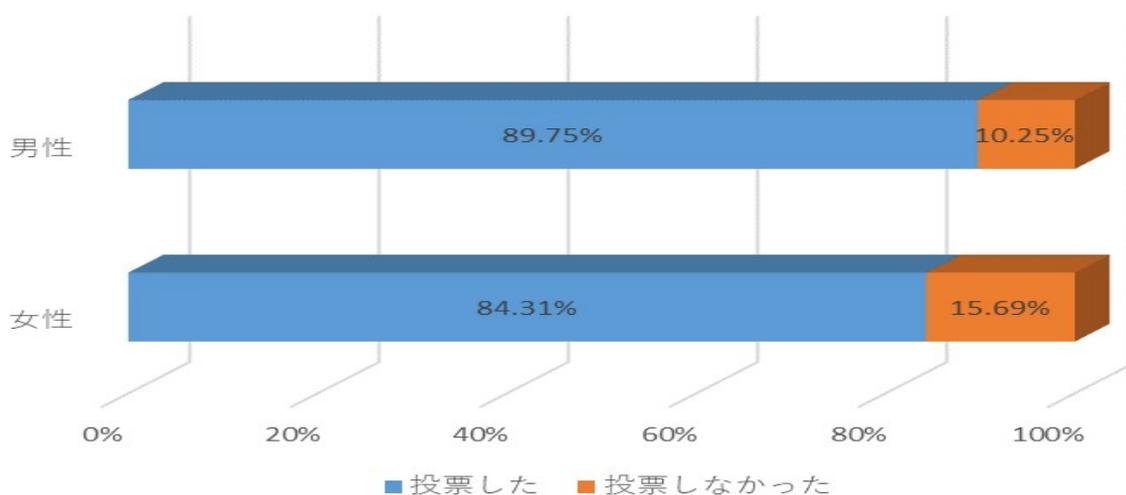
I 市議会議員の選挙について伺います。

問4 前回の市議選（平成29年4月執行）は、投票しましたか。

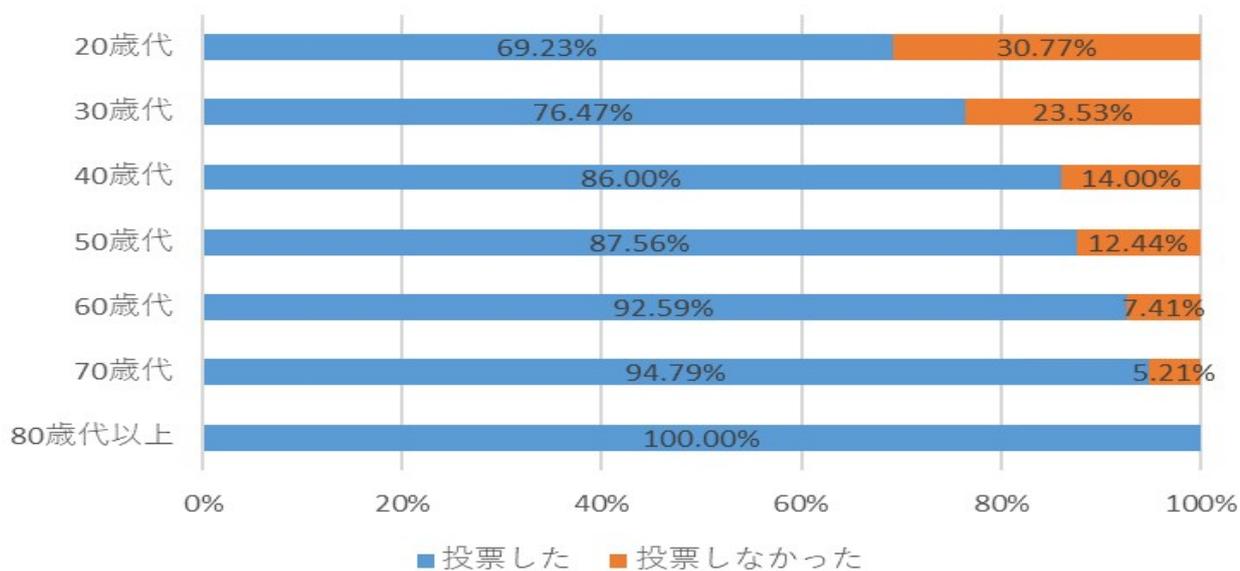
《全体》



《男女別》

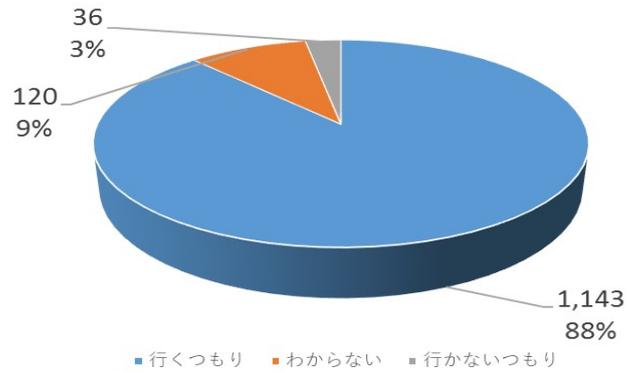


《年代別》

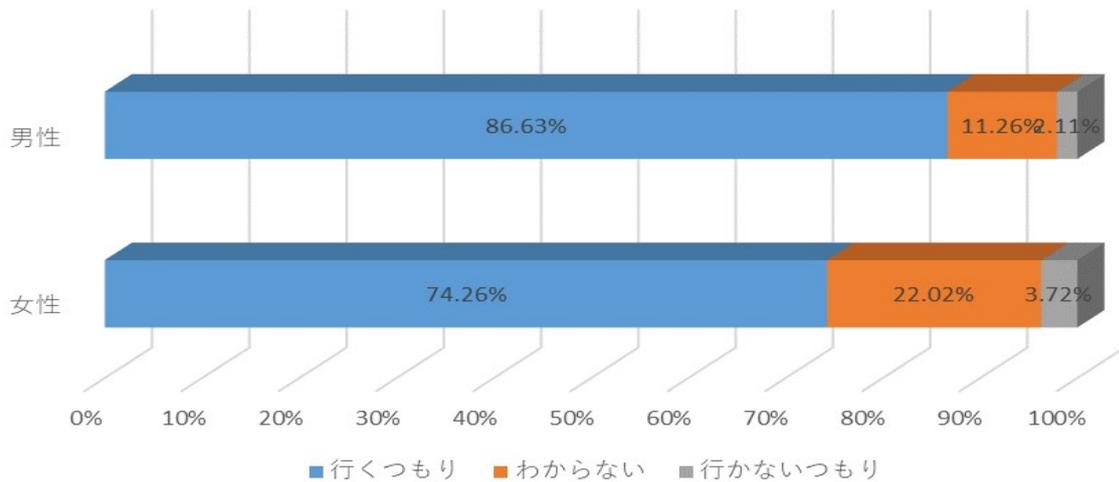


問5 次回の市議選（令和3年4月執行）には、投票に行きますか。

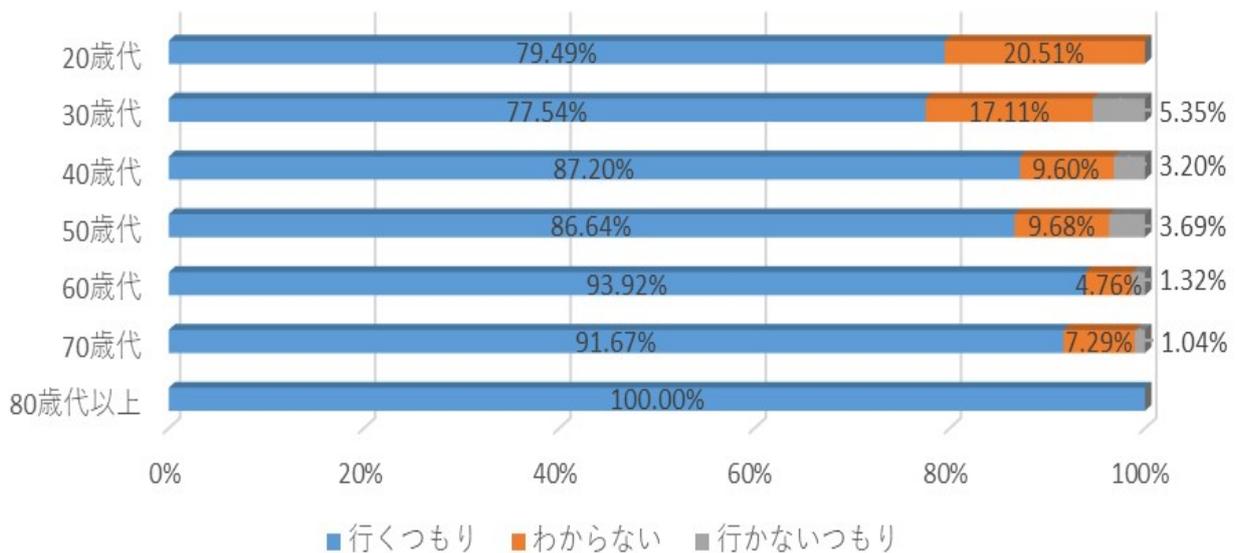
《全体》



《男女別》



《年代別》



分析と考察

アンケートに対する回答は、60歳代の回答が最も多く、女性よりも男性の回答が多かった。

前回の市議会議員選挙での投票率については、女性よりも男性の方が低かったが（男性：52.58%、女性55.13%）、このアンケートでは、男性よりも女性の方が投票に行かなかった割合は高かった。

また、年代が下がるにつれて、投票率が低下することについては、このアンケートでも同様の結果となっている。

前回の市議会議員選挙に行かなかった人と、次回も「行かない」、「わからない」と回答した人が、ほぼ同程度の割合であり、多様な観点から対策を講じなければ、投票に行く意向のない方の行動変容を促すことは難しく、投票率の向上は期待できない。

このコロナ禍において、投票時における感染を危惧する声もあり、期日前投票を含め、万全な対策が必要である。

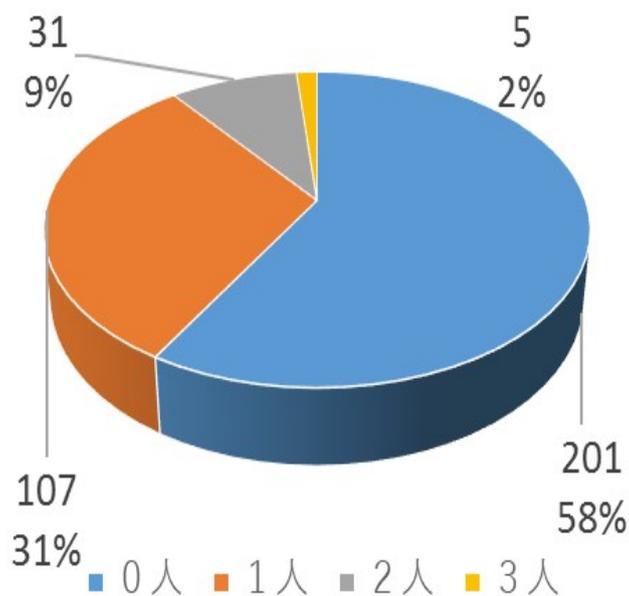
具体的な対応策

- ① インターネットを活用した広報活動
（例：FacebookやLINEによる議会活動の発信）
- ② 議会活動の周知や議会認知度の向上
（例：各種団体との意見交換会、広報誌の充実）
- ③ 投票率向上に向けた投票環境の整備
（例：主権者教育、投票所の増設、ネット投票）
- ④ 多様な人材が立候補できる仕組みづくり
（例：議会活動がしやすい環境整備）

[参考資料]

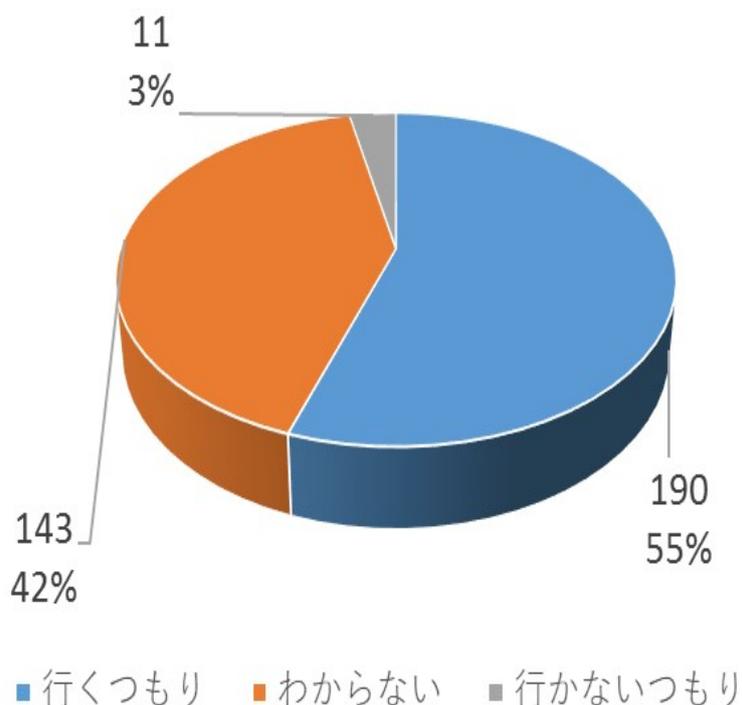
高校生を対象としたアンケートについては、前回の市議会議員選挙では、まだ選挙権がありませんでしたので、別の設問を用意しました。

問4 現在の市議会議員で顔や名前を知っている議員は何人いますか。



問5 次回の市議選には、投票に行きますか。

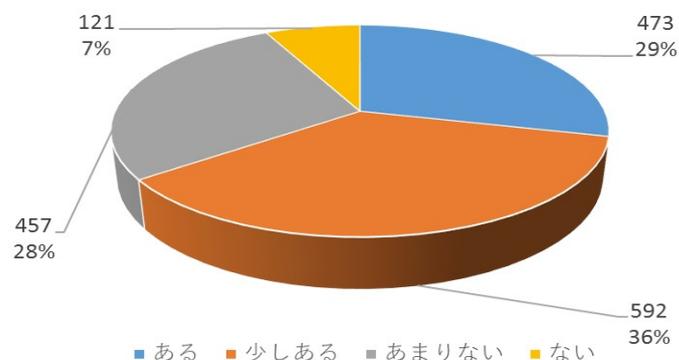
※ 18歳から選挙で投票できますが、その時のことを仮定しておたずねします。



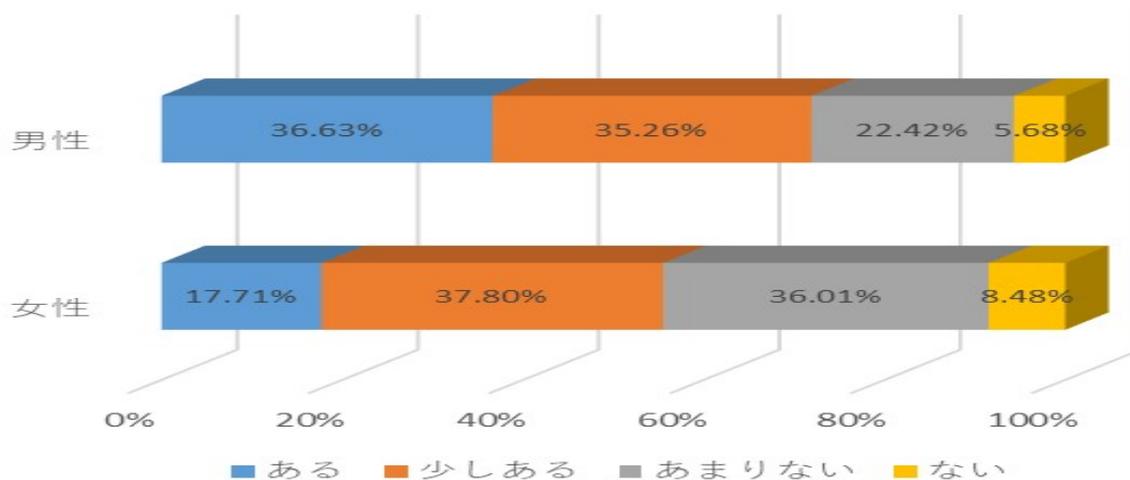
Ⅱ 市議会議員の活動について伺います。 《前半：問6～問9》

問6 市議会に関心がありますか。

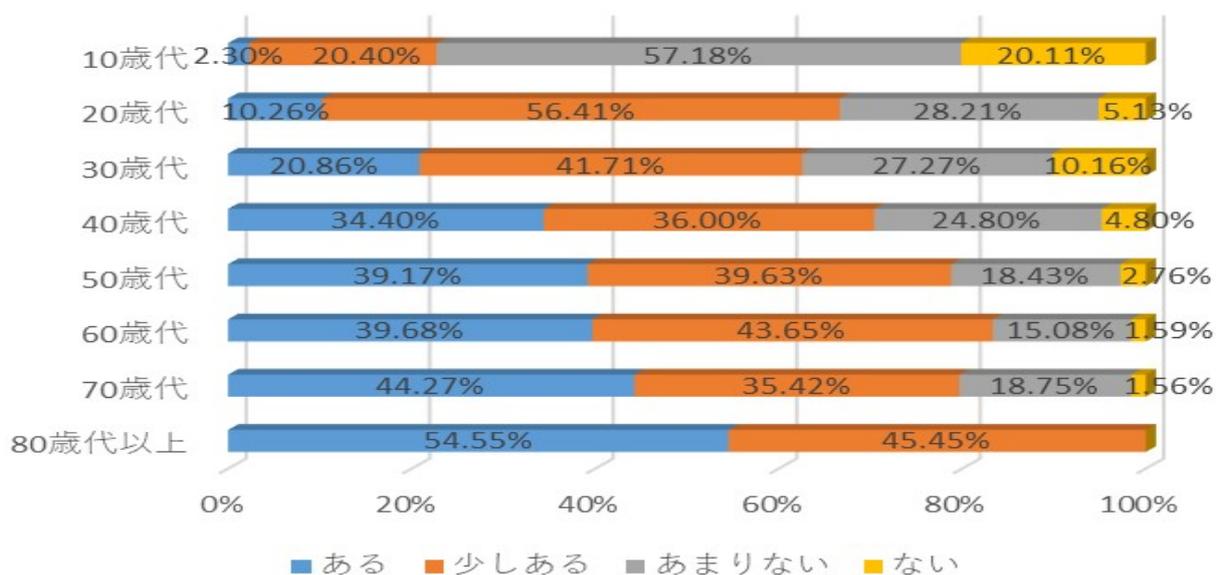
《全体》



《男女別》

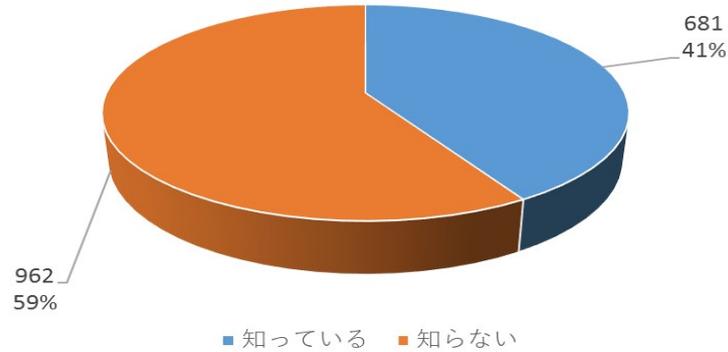


《年代別》

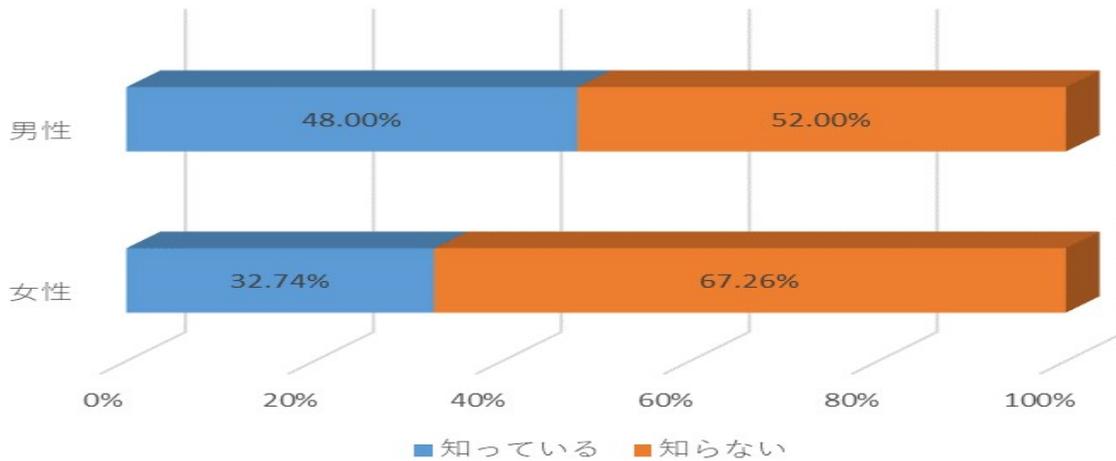


問7 市議会定例会が、年4回（3月・6月・9月・12月）開催されていることを知っていますか。

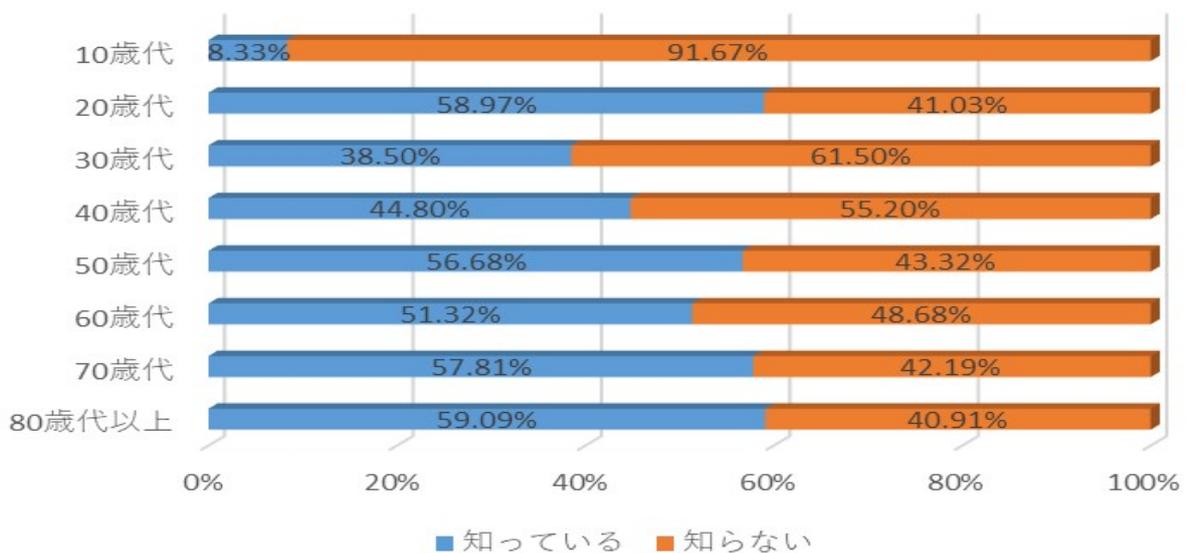
《全体》



《男女別》

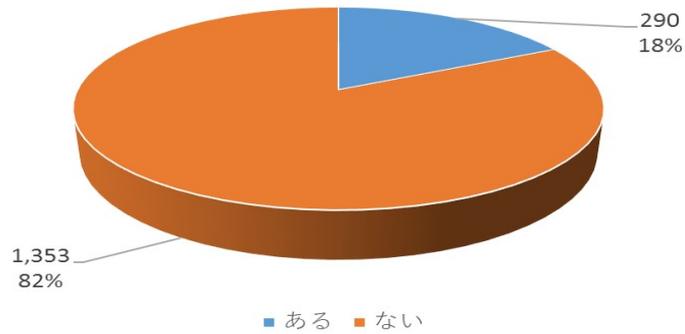


《年代別》

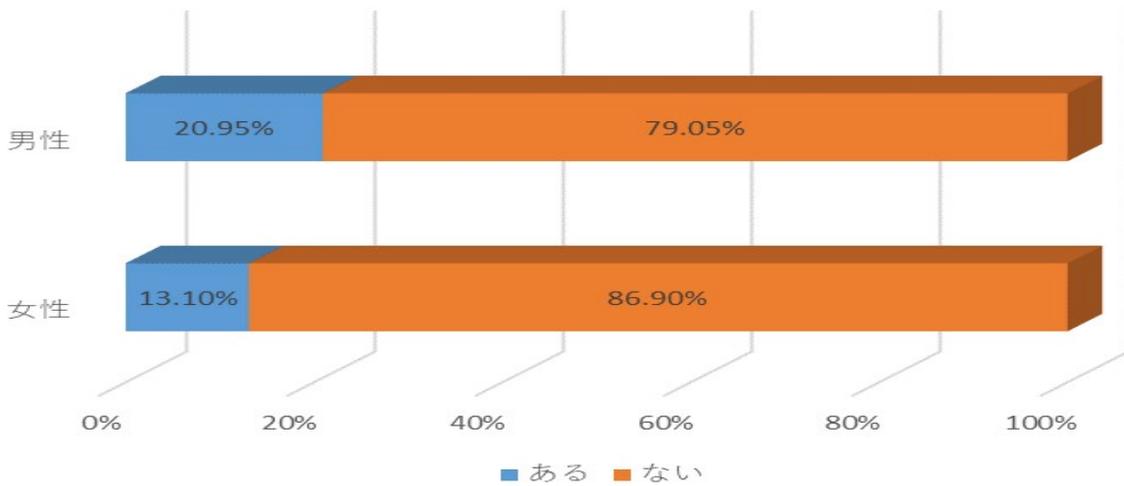


問8-1 市議会（本会議・委員会）をご覧になったことがありますか。

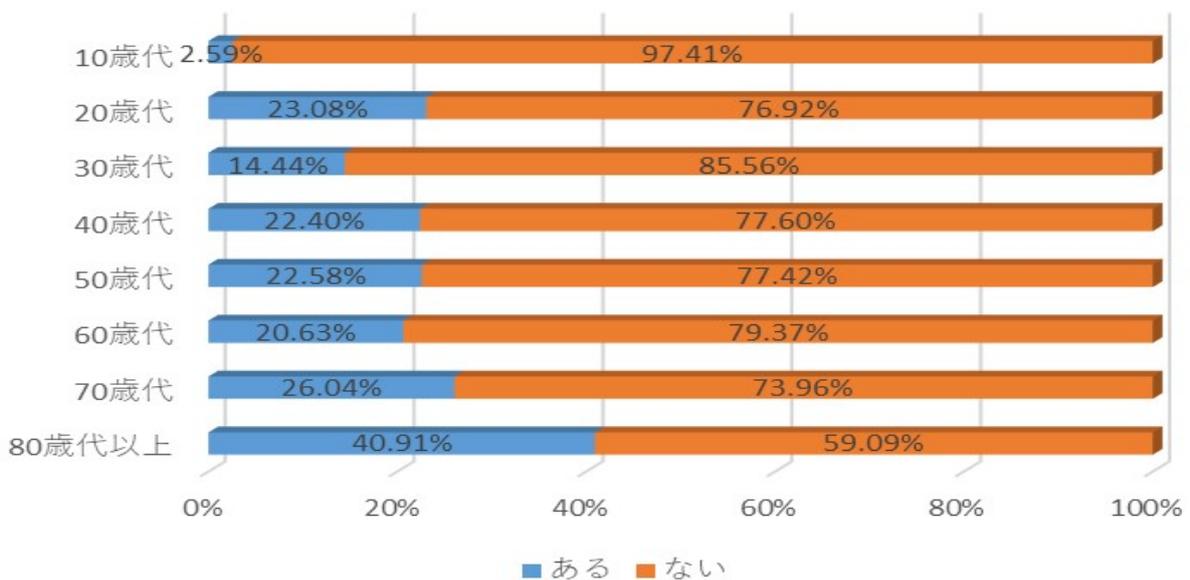
《全体》



《男女別》



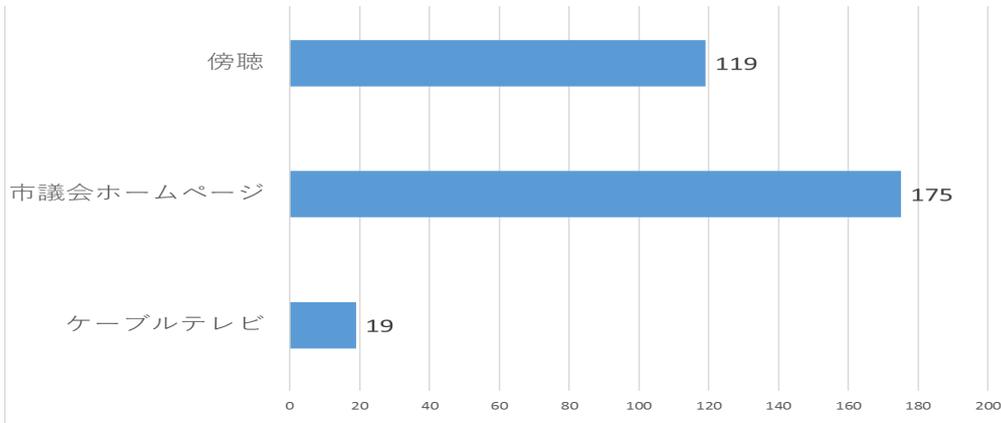
《年代別》



問8-2

市議会（本会議・委員会）をご覧になったことがありますか。
 ⇒ 『ある：290人』 ⇒ 何でご覧になりましたか。 [複数回答可]

《全体》



《男女別》

	傍聴		市議会ホームページ		ケーブルテレビ	
総計	119	41.03%	175	60.34%	19	6.55%
男性	81	40.70%	126	63.32%	14	7.04%
女性	37	42.05%	47	53.41%	5	5.68%

※男女ごとの割合を記載

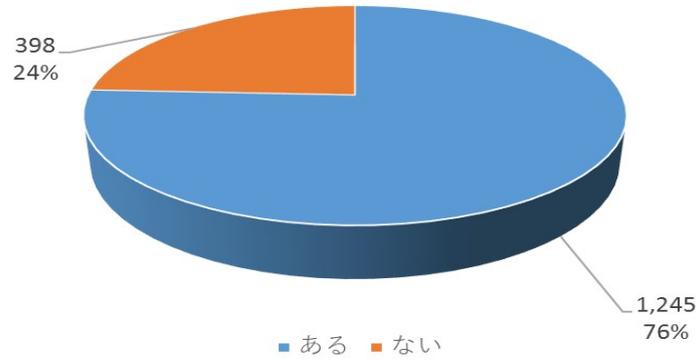
《年代別》

	傍聴		市議会ホームページ		ケーブルテレビ	
総計	119	41.03%	175	60.34%	19	6.55%
10歳代	4	44.44%	3	33.33%	2	22.22%
20歳代			9	100.00%		
30歳代	4	14.81%	23	85.19%	2	7.41%
40歳代	9	16.07%	44	78.57%	6	10.71%
50歳代	7	14.29%	44	89.80%	2	4.08%
60歳代	45	57.69%	38	48.72%	5	6.41%
70歳代	45	90.00%	8	16.00%	1	2.00%
80歳代以上	5	55.56%	3	33.33%	1	11.11%

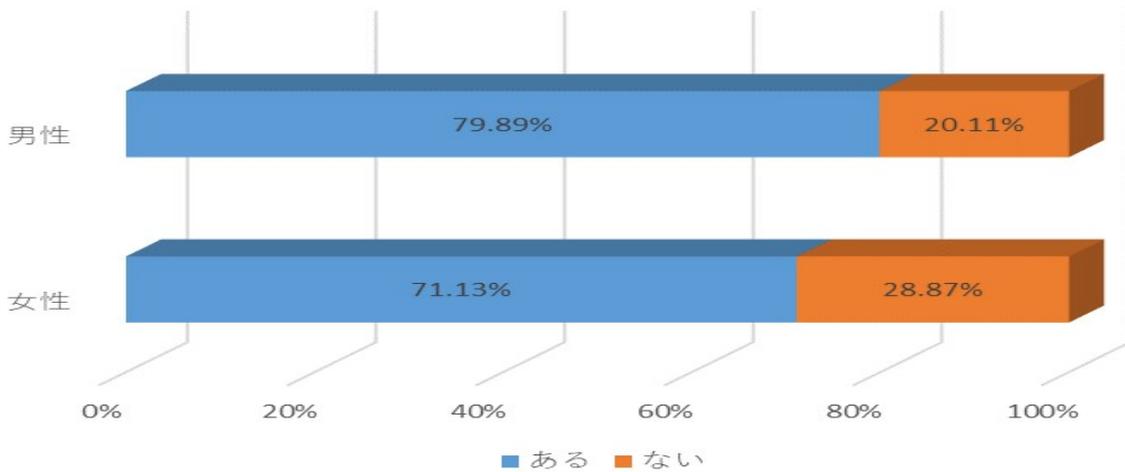
※年代ごとの割合を記載

問9 「ふくろい市議会だより」を読んだことがありますか。

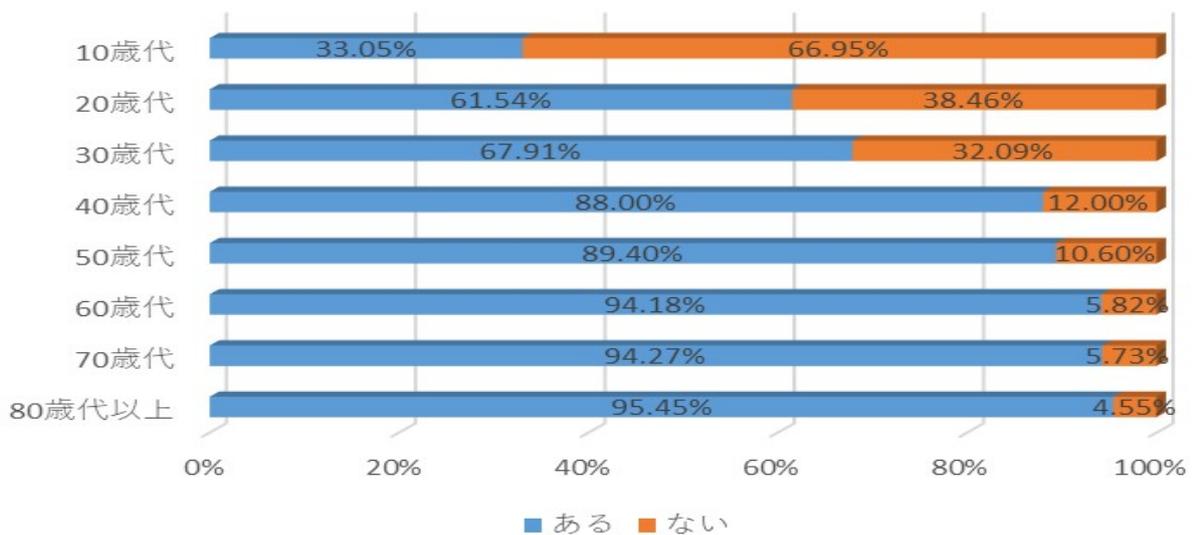
《全体》



《男女別》



《年代別》



分析と考察

議会への関心については、10歳代から40歳代で低く、特に女性の方が低い傾向にある。新聞購読の低下といった世相の反映もあるが議会から発信する情報が届いていないのではないかと。

議会の傍聴については、直接、市役所に来るよりは、インターネットによる視聴の割合が多く、コロナ禍の状況を含め、時代の流れからも、この傾向は今後さらに加速すると思われる。

ただ、議会における活発な議論を直接見ていただくことも、当然重要であり、傍聴への勧誘は、引き続き行う必要がある。

議会だよりについては、議会活動を伝える重要な手段であり、現在、広報委員会を組織して作成に当たっているが、体制や活動についても強化していくべきである。

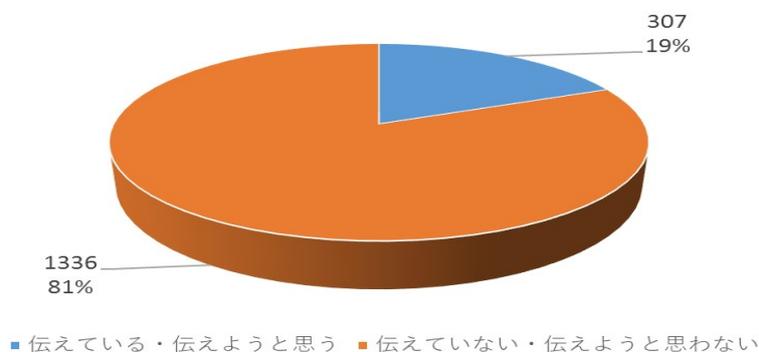
具体的な対応策

- ① プッシュ型による議会活動の周知
(例：タブレットを活用したSNS発信)
(例：傍聴への招待、地元高校への広報紙提供)
- ② 議会広報紙のリニューアル
(例：市民の興味を引く充実した内容に)
- ③ 広報委員会の強化
(例：権限を持たせ、さらなる活性化を図る)
- ④ 議会傍聴の環境整備
(例：託児サービスの提供など)

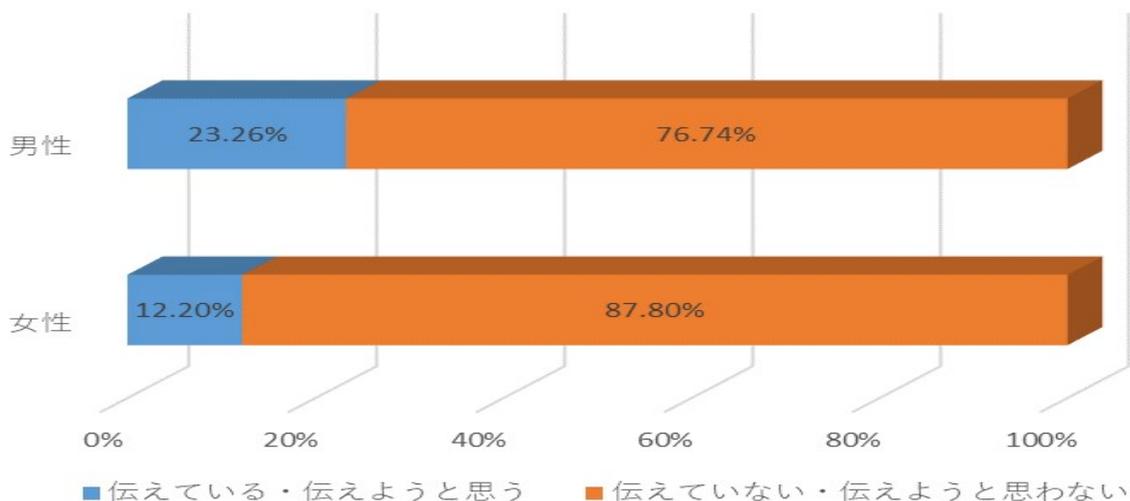
Ⅱ 市議会議員の活動について伺います。 《後半：問10～問13》

問10-1 市議会議員に、自分の意見や要望を伝えていますか。

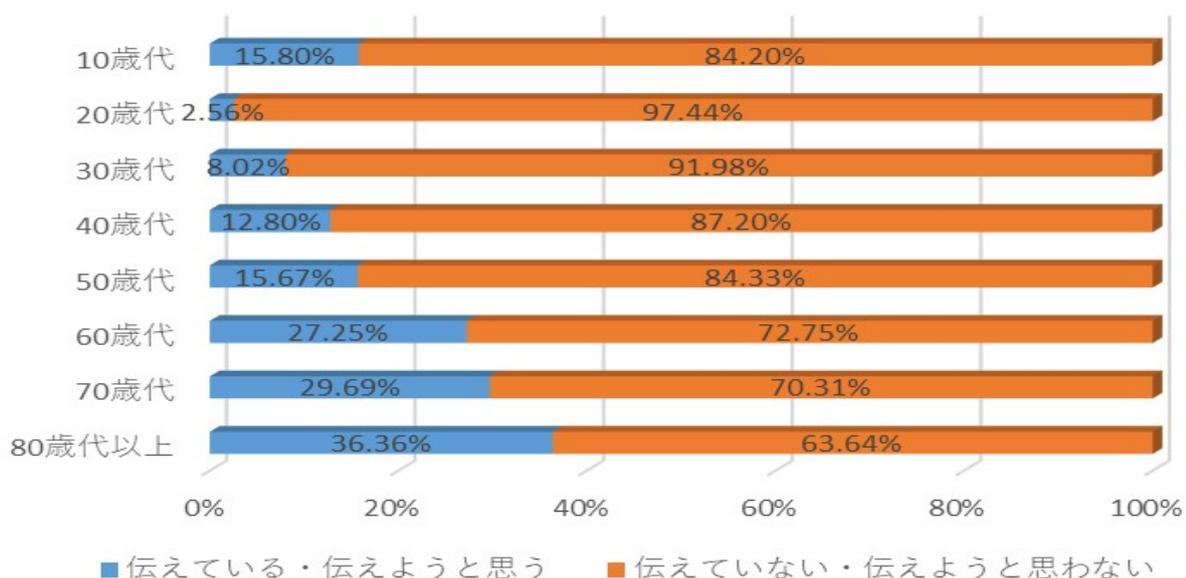
《全体》



《男女別》

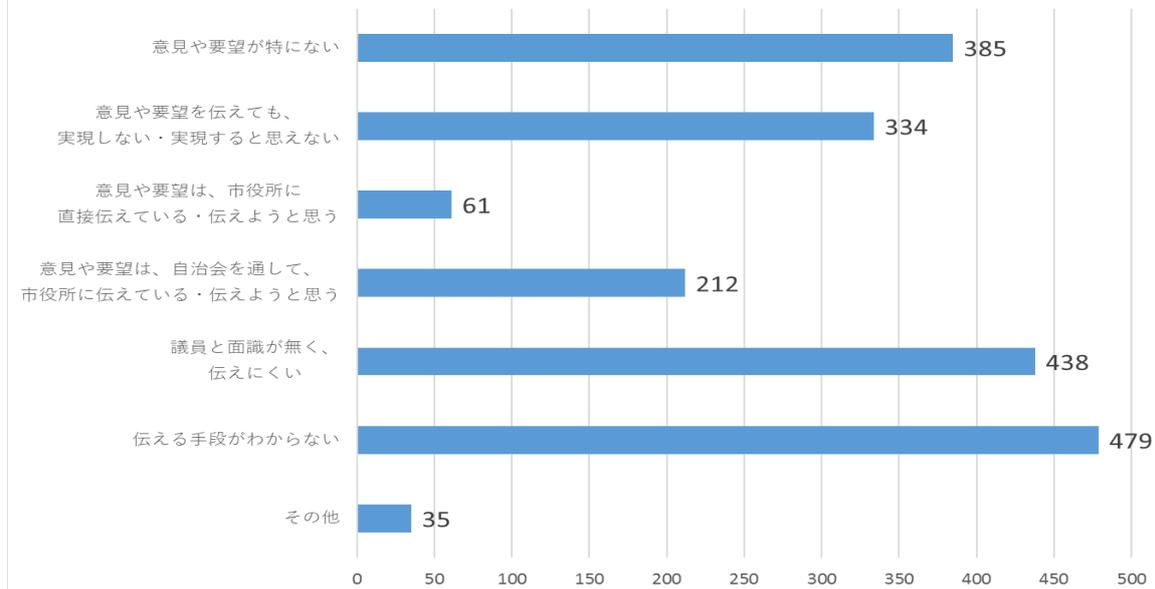


《年代別》



問10-2 市議会議員に、自分の意見や要望を伝えていきますか。⇒『伝えていない・伝えようと思わない：1,336人』⇒理由は何ですか。〔複数回答可〕

《全体》



《男女別》

	意見や要望が特にない	実現しない 実現すると思えない	市役所に直接伝える	自治会を通して伝える	議員と面識が無く、伝えにくい	伝える手段がわからない	その他
総計	28.82%	25.00%	4.57%	15.87%	32.78%	35.85%	2.62%
男性	25.24%	24.42%	5.90%	22.63%	33.06%	31.55%	31.22%
女性	33.22%	25.59%	2.71%	7.80%	32.71%	41.02%	30.38%

※男女ごとの割合を記載

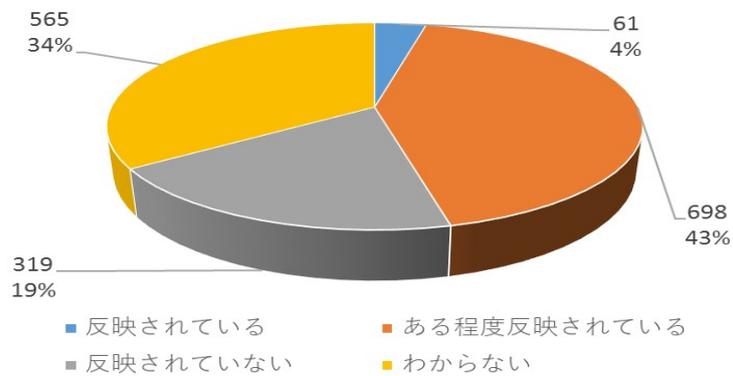
《年代別》

	意見や要望が特にない	実現しない 実現すると思えない	市役所に直接伝える	自治会を通して伝える	議員と面識が無く、伝えにくい	伝える手段がわからない	その他
総計	28.82%	25.00%	4.57%	15.87%	32.78%	35.85%	2.62%
10歳代	69.28%	21.84%	0.00%	0.00%	11.95%	23.55%	0.68%
20歳代	36.84%	15.79%	2.63%	0.00%	55.26%	50.00%	
30歳代	15.70%	29.07%	5.23%	4.07%	45.93%	60.47%	2.91%
40歳代	17.43%	24.77%	4.13%	14.22%	42.20%	49.54%	5.96%
50歳代	18.58%	24.04%	8.20%	21.31%	36.61%	41.53%	2.73%
60歳代	15.64%	26.18%	7.27%	32.36%	35.64%	27.64%	2.18%
70歳代	12.59%	30.37%	4.44%	32.59%	28.89%	17.78%	2.96%
80歳代以上	42.86%	7.14%		14.29%	28.57%	14.29%	

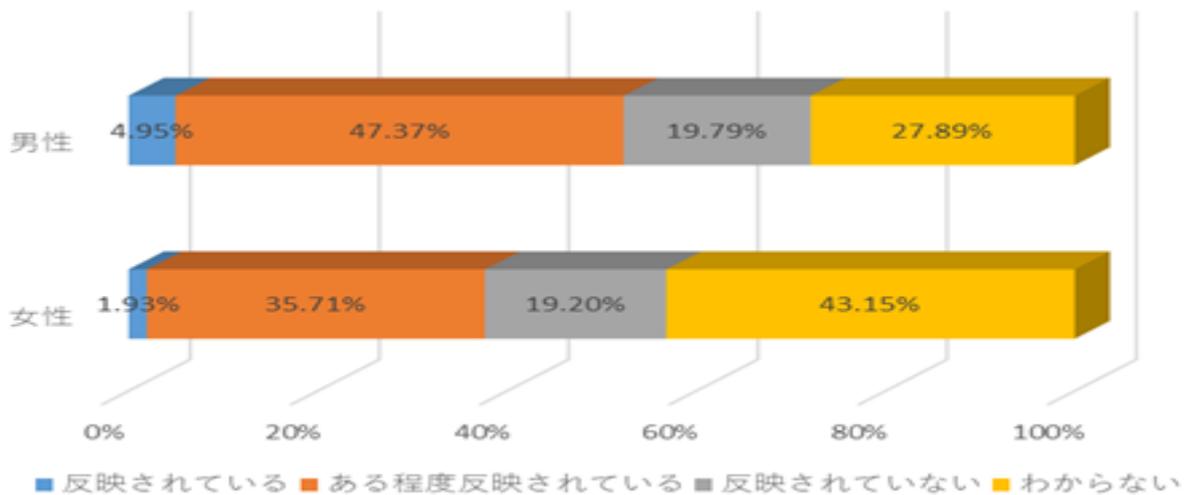
※年代ごとの割合を記載

問11 市議会に市民の声が反映されていると思いますか。

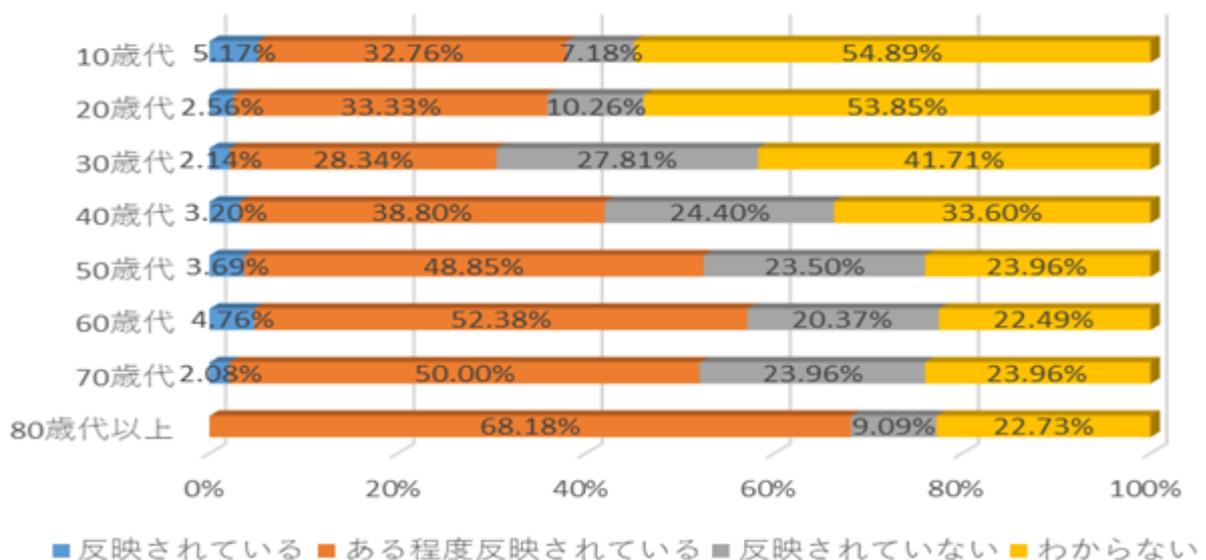
《全体》



《男女別》

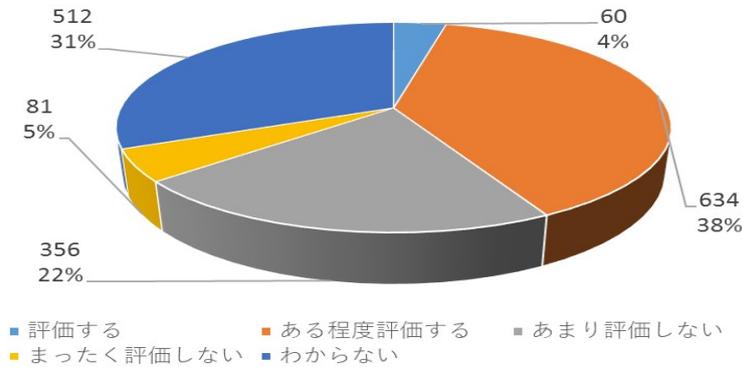


《年代別》

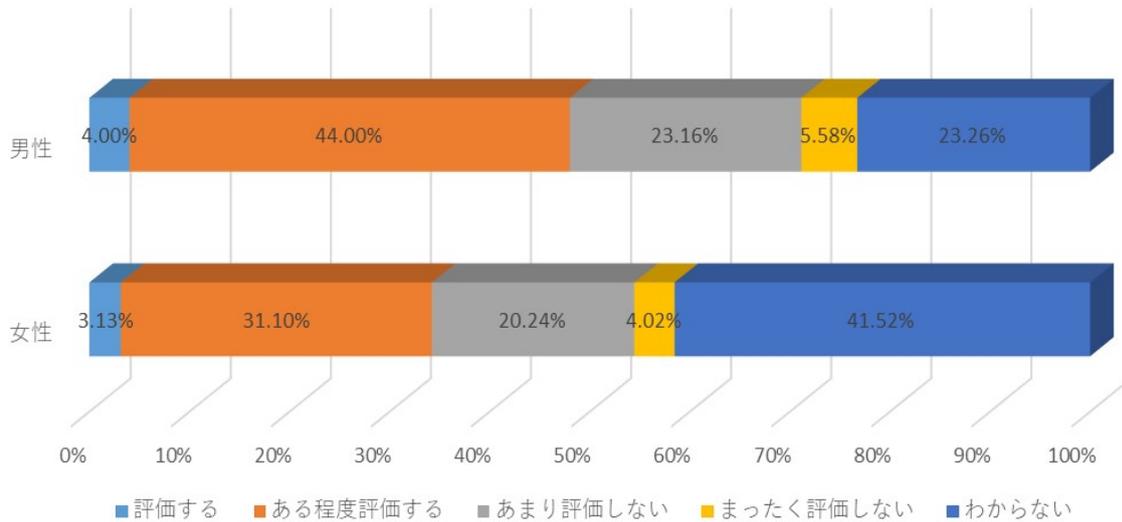


問12 今の市議会をどのように評価しますか。

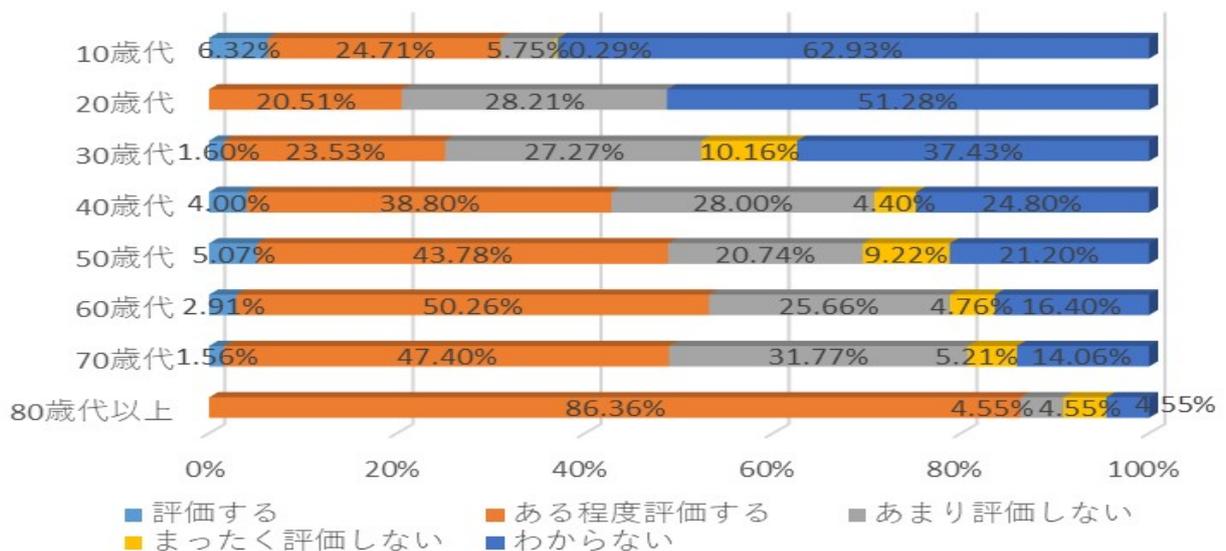
《全体》



《男女別》

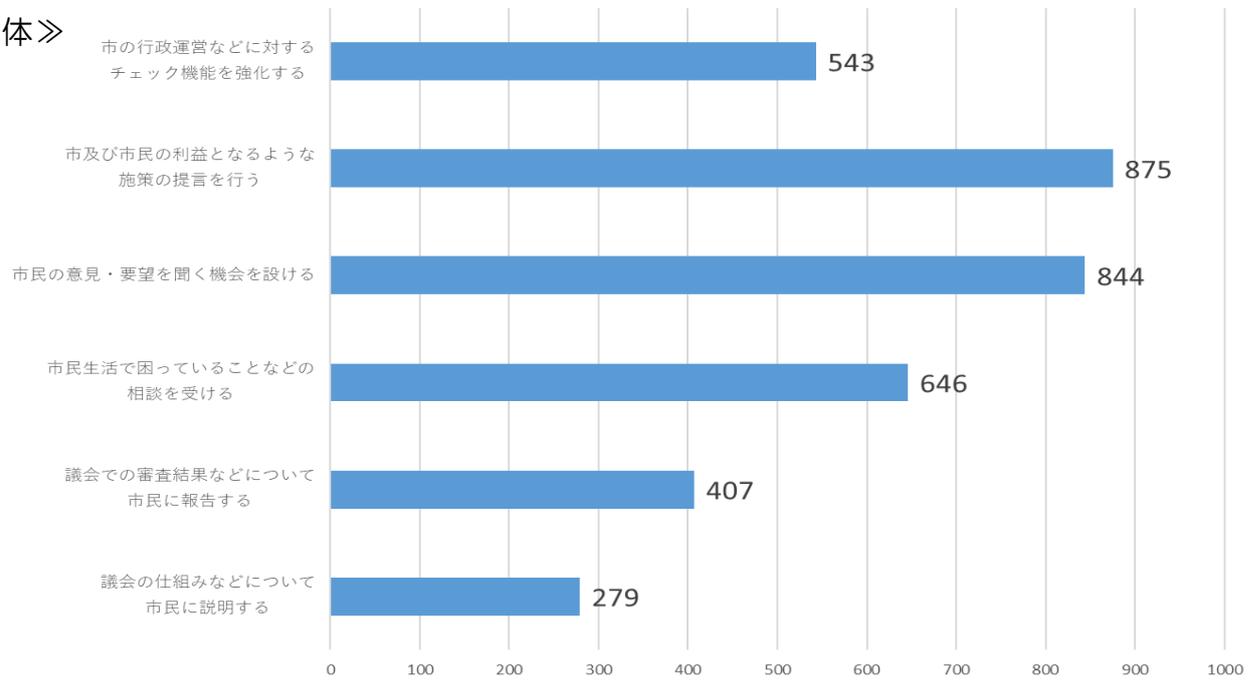


《年代別》



問13 市議会・市議会議員に対して、何を期待しますか。〔複数回答可〕

《全体》



《男女別》

	市行政運営の チェック機能 を強化	市及び市民の 利益となる 施策の提言	市民の意見・ 要望を聞く 機会を設ける	市民生活での 困りごと相談 窓口	議会での 審査結果など 市民に報告	議会の仕組み などについて 市民に説明
総計	33.05%	53.26%	51.37%	39.32%	24.77%	16.98%
男性	38.74%	57.58%	50.11%	37.89%	25.89%	15.58%
女性	25.45%	47.17%	53.72%	41.96%	23.51%	19.05%

※男女ごとの割合を記載

《年代別》

	市行政運営の チェック機能 を強化	市及び市民の 利益となる 施策の提言	市民の意見・ 要望を聞く 機会を設ける	市民生活での 困りごと相談 窓口	議会での 審査結果など 市民に報告	議会の仕組み などについて 市民に説明
総計	33.05%	53.26%	51.37%	39.32%	24.77%	16.98%
10歳代	17.24%	43.97%	48.85%	37.93%	14.66%	18.97%
20歳代	17.95%	48.72%	33.33%	35.90%	28.21%	30.77%
30歳代	26.20%	54.01%	54.55%	44.92%	21.93%	25.13%
40歳代	26.00%	61.20%	50.00%	43.60%	28.40%	15.20%
50歳代	37.79%	62.21%	50.23%	42.40%	27.19%	15.67%
60歳代	46.03%	57.14%	53.17%	41.01%	28.04%	15.34%
70歳代	51.04%	45.31%	55.21%	29.17%	31.77%	10.94%
80歳代以上	31.82%	22.73%	59.09%	9.09%	18.18%	9.09%

※年代ごとの割合を記載

分析と考察

議会への関心度向上を図るうえで、議員個人を知ってもらうことも大事だが、議会全体としての取り組みを周知することも必要である。

議会の評価については厳しいものがあり、特に20歳代～30歳代の評価が非常に低かった。これまでの設問に対する回答からも、若年層や女性にターゲットを絞った取組が必要ではないか。

また、市議会への関心と評価、市民の声の反映と評価については、それぞれ相関性が認められ、議会が評価されるポイントとして重要視すべきである。

議員への期待は、形式的な報告よりは、政策提言、意見聴取や相談など、市民との関わりを重視する傾向にある。議員個人・議会全体の活動において、活動内容の報告も重要であるが、市民の声が届くような機会を創出することへの配慮も必要ではないか。

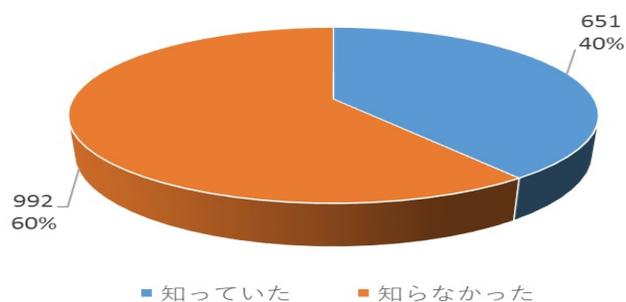
具体的な対応策 《案》

- ① 市民と意見交換する機会の拡充
(例：小学校区・コミセン単位、各種団体等)
- ② 若年層や女性を対象とした議会活動
(例：議会報告会の拡充、学校への出前講座)
(例：若年層や女性が関心を持つ話題の提供)
- ③ 市政に対する政策提言能力の向上
(例：一般質問における内容の充実)
(例：議会からの政策立案・条例制定に向けた
先進事例の研究)

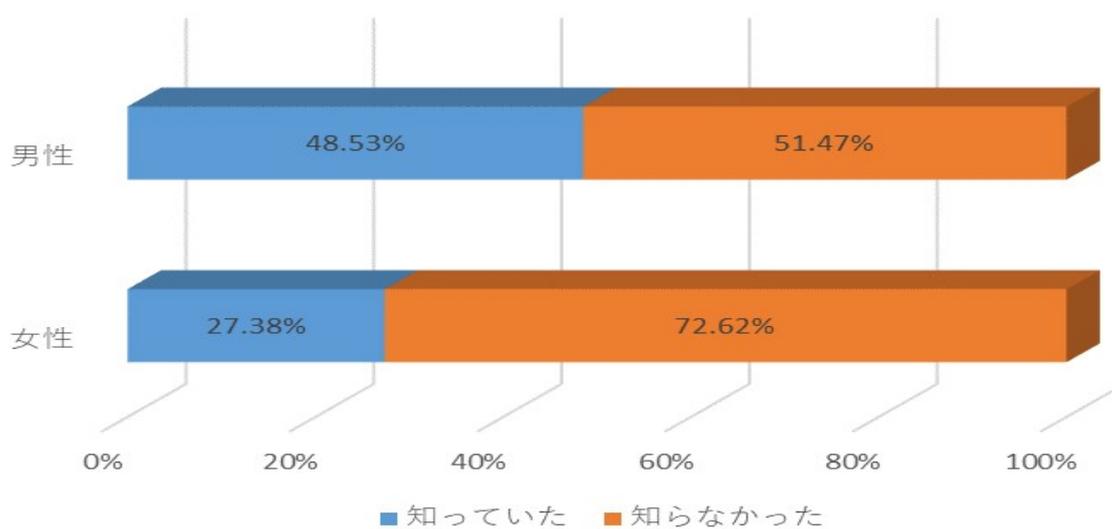
Ⅱ 市議会議員の定数について伺います。

問14 現在の袋井市議会議員の定数が20人であることを知っていましたか。

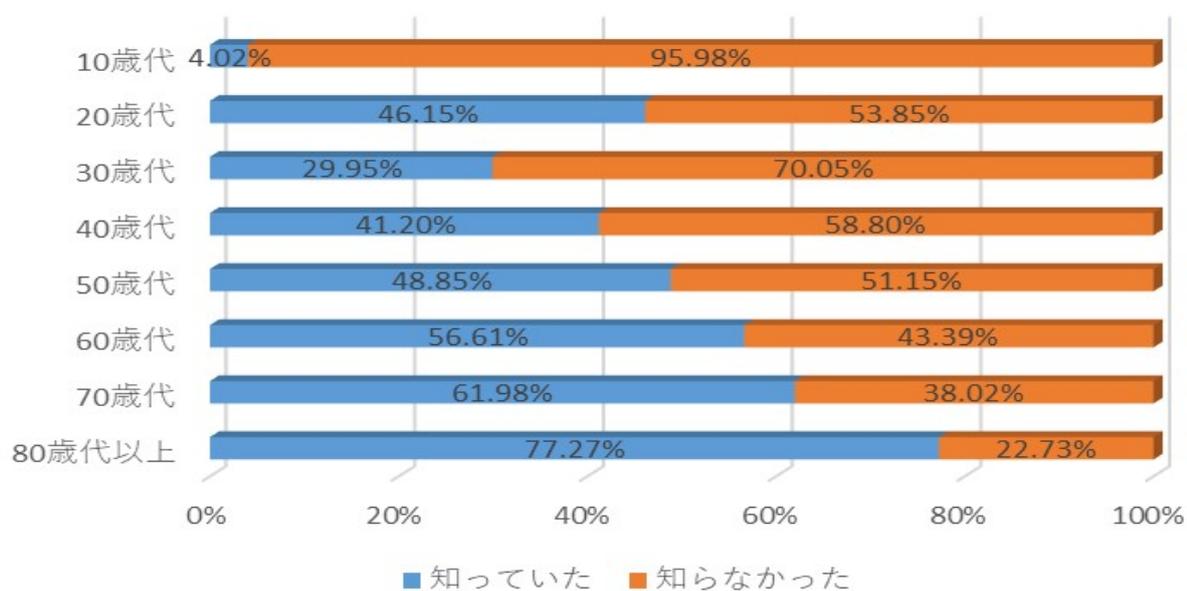
《全体》



《男女別》

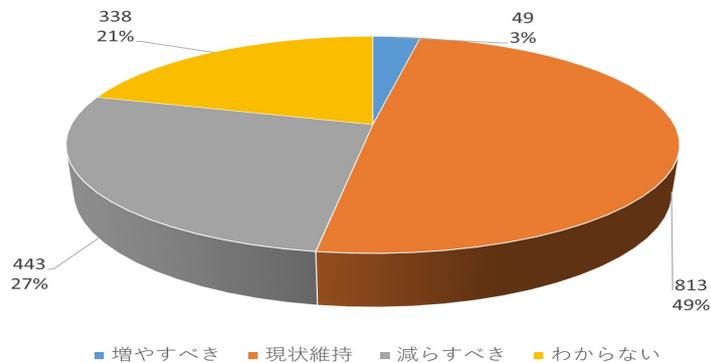


《年代別》

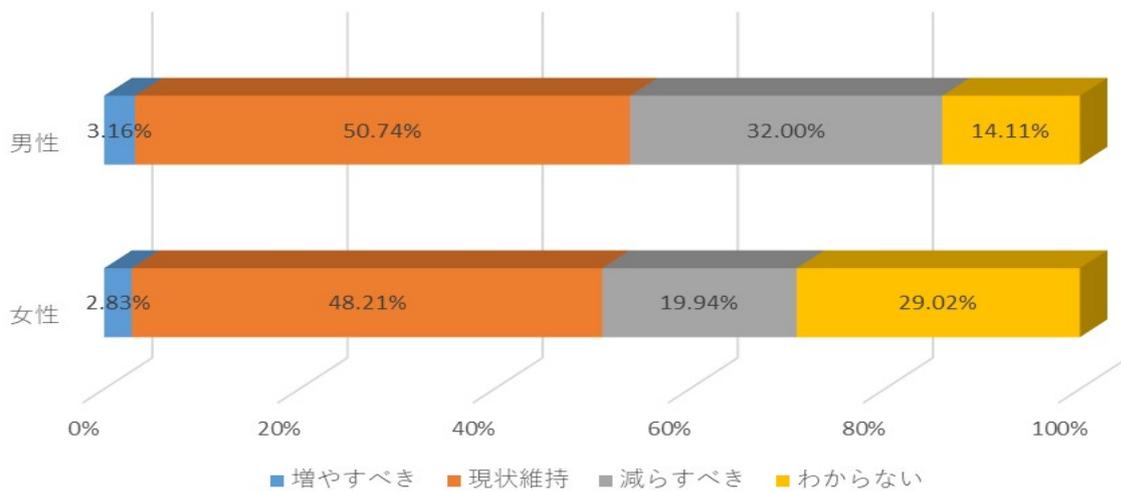


問15-1 今後の袋井市議会議員の定数についてどう考えますか。

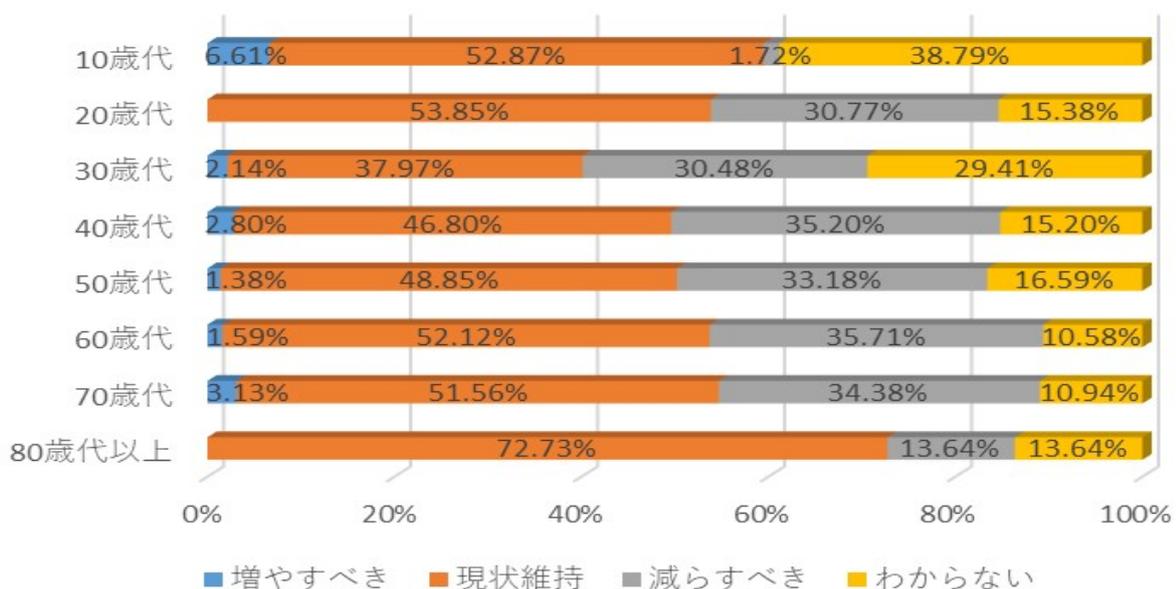
《全体》



《男女別》

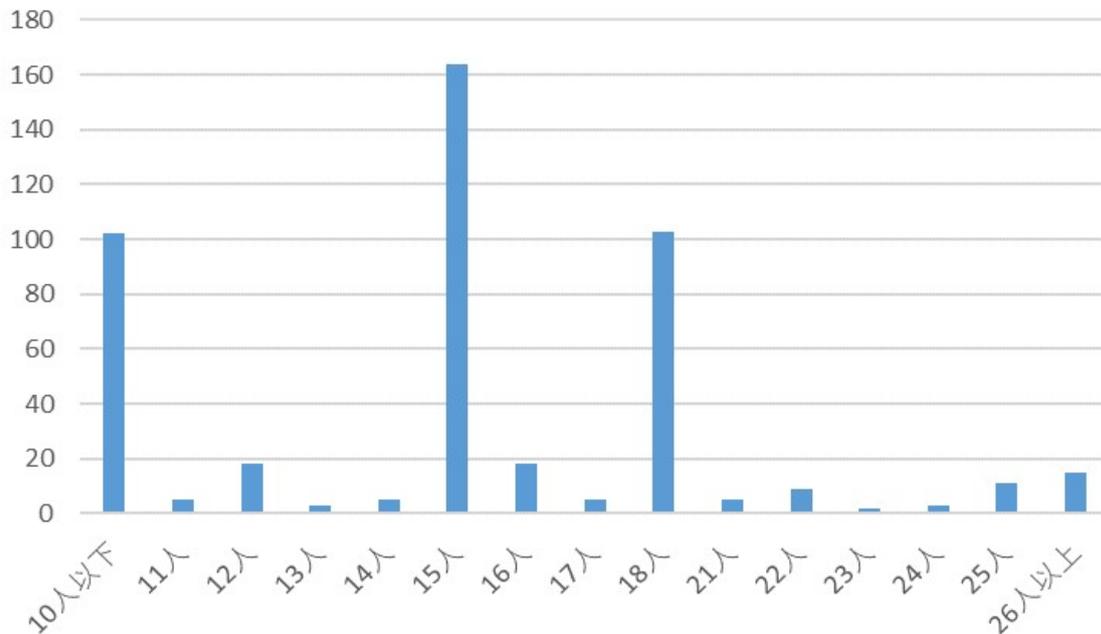


《年代別》



問15-2 袋井市議会議員の定数は、何人が適正だと考えますか。

《全体》



『増やすべき』と回答した方の内訳

《男女別》

	21人	22人	23人	24人	25人	26人～
総計	11.11%	20.00%	4.44%	6.67%	24.44%	33.33%
男性	10.71%	25.00%	3.57%	7.14%	28.57%	25.00%
女性	11.76%	11.76%	5.88%	5.88%	17.65%	47.06%

《年代別》

	21人	22人	23人	24人	25人	26人～
総計	11.11%	20.00%	4.44%	6.67%	24.44%	33.33%
10歳代	4.55%	9.09%	0.00%	9.09%	27.27%	50.00%
20歳代	—	—	—	—	—	—
30歳代	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%
40歳代	14.29%	57.14%	14.29%	0.00%	0.00%	14.29%
50歳代	0.00%	33.33%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%
60歳代	0.00%	20.00%	0.00%	20.00%	40.00%	20.00%
70歳代	25.00%	25.00%	0.00%	0.00%	50.00%	0.00%
80歳代以上	—	—	—	—	—	—

『減らすべき』と回答した方の内訳

《男女別》

	～10人	11人	12人	13人	14人	15人	16人	17人	18人
総計	24.11%	1.18%	4.26%	0.71%	1.18%	38.77%	4.26%	1.18%	24.35%
男性	23.13%	0.68%	4.76%	1.02%	0.68%	38.10%	5.44%	1.70%	24.49%
女性	25.81%	2.42%	3.23%	0.00%	2.42%	41.13%	1.61%	0.00%	23.39%

《年代別》

	～10人	11人	12人	13人	14人	15人	16人	17人	18人
総計	24.11%	1.18%	4.26%	0.71%	1.18%	38.77%	4.26%	1.18%	24.35%
10歳代	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	66.67%	0.00%	0.00%	0.00%
20歳代	25.00%	0.00%	16.67%	0.00%	0.00%	50.00%	8.33%	0.00%	0.00%
30歳代	36.84%	1.75%	3.51%	0.00%	1.75%	42.11%	0.00%	3.51%	10.53%
40歳代	33.33%	0.00%	6.90%	3.45%	2.30%	37.93%	4.60%	0.00%	11.49%
50歳代	31.34%	0.00%	2.99%	0.00%	1.49%	29.85%	7.46%	0.00%	26.87%
60歳代	15.32%	3.23%	2.42%	0.00%	0.81%	37.90%	4.84%	0.81%	34.68%
70歳代	9.52%	0.00%	3.17%	0.00%	0.00%	42.86%	3.17%	3.17%	38.10%
80歳代以上	0.00%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	66.67%	0.00%	0.00%	0.00%

分析と考察

議員定数が20人という認知度については、男性のほぼ半数、女性の7割以上が知らないという回答であり、10歳代（大多数が高校生）にはほとんど知られておらず、また、30歳代～40歳代における女性の認知度も低く、これまでの設問に対する回答の状況からも、市議会への関心の低さが伺える。

議員定数自体については、全体の約5割が「現状維持」と回答し、「わからない」という回答は、全体の約2割という結果であった。また、「減らすべき」という回答は、全体の約3割であり、男女別で見ると、女性よりも男性の割合が高かった。

「減らすべき」と回答した方のうち、15人以下という意見が多く、議会・議員活動を知っていただく重要性と市民に説明できる議員定数に対する考え方を明確にする必要性が生じている。

自由意見では、定数の増減に関する意見のみではなく、議員に期待することや若手・女性の進出など、多数のご意見をいただきました。

具体的な対応策

議員定数は、袋井市議会基本条例で、『市政の現状及び課題、今後の予測等を十分に考慮するとともに、市民の意見を反映して決定するもの』と定められています。

議員定数を検討する場合には、市民意見の反映や行政改革の推進、また、議会活動に対する評価などの様々な視点がありますが、合理的な基準がないのが実情です。

このため、議員定数のあり方については、アンケート調査で出された市民の意見をはじめ、市民団体の意見・要望等を参考にし、必要とする議員定数の背景・経緯等を検証するとともに、場合によっては、有識者や第三者機関からの提言なども求めて、議会として協議していきます。

アンケート全体を通して

袋井市議会の活動が、広く市民の皆さんに周知できていないことから、市議会への関心や理解度が低く、評価にもつながっていないこと、特に若い世代や女性において、そういった傾向が強いということがアンケート結果から示されました。

また、市内2高等学校にもご協力をいただき、多くの高校生にもアンケートに回答していただきましたが、これからの袋井市の未来を託していく若い世代にも、もっとアプローチをしていかなければならないと感じています。

今後の取組として、具体的な対応策についても検討できましたのでそれらを実現し、袋井市議会が市民からの負託に応えられるよう努めていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

令和2年11月

袋井市議会『議会活性化特別委員会』

委員長	高木 清隆	副委員長	佐野 武次
委員	浅田 二郎	委員	鈴木 弘睦
委員	伊藤 謙一	委員	竹野 昇